

# イノシシ被害防止 対策マニュアル

～集落ぐるみで取り組もう～

柏崎市有害鳥獣被害対策協議会

# 目次

- 1 イノシシの生態
- 2 生息環境管理
- 3 被害防除
- 4 個体数管理（捕獲）
- 5 集落ぐるみの取組
- 6 最後に

# 1 イノシシの生態

イノシシの被害防止対策を実施する上で、イノシシのことを正しく知ることが重要です。正しい知識を得ることが、正しい対策へとつながります。

## (1) 警戒心が強く臆病

- ・イノシシは、元来臆病で注意深い動物でなかなか人前に姿を現さない。しかし、昨今は人に慣れたイノシシが増え、住宅街にも姿を現すようになっている
- ・イノシシに遭遇しても、近寄ったり、刺激を与えたりしないことが大切

## (2) 高い身体能力

- ・助走なしで1 m以上の柵を跳び越えることができる。また、よじ登ることのできる柵であれば、2 mの高さも乗り越えることができる
- ・20 c mの隙間があればぐり抜けることができる
- ・パワーショベルのように鼻を自在に操り、重いものを持ち上げたり、地面を掘ったりできる
- ・嗅覚が優れており、犬に匹敵するほど優秀

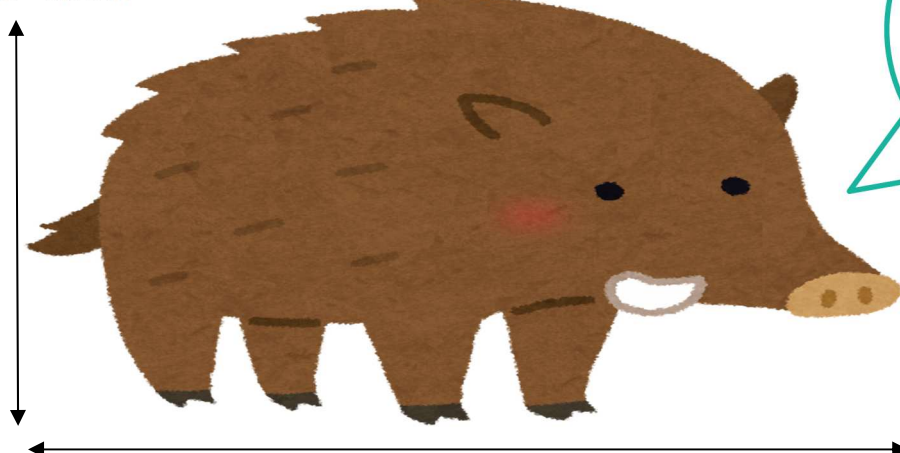
## (3) 高い学習能力

- ・人の動きを観察する賢さがあり、覚えが早く、一度覚えると忘れない
- ・「イノシシを見たらサルと思え」という研究者もいる

## (4) 高い繁殖能力

- ・妊娠期間は、約120日で春から秋にかけて出産する
- ・1年間の出産回数は、1から2回程度
- ・1回の出産で平均4から5頭産む

高さ約 50~80 c m



なんでも食べるよ  
特に人間のつくった  
農作物は大好き

体長約 50~160 c m

体重約 20~150 k g

## 2 生息環境管理

農地周辺がイノシシの住みやすい環境になっていないかチェックしましょう。イノシシを呼び寄せない環境をつくり、集落全体でイノシシに嫌われる農地にすることが重要です。

### (1) 餌付けになる誘引物の除去

- ・畑の野菜クズ、山林の落下した果実などを放置しないようにしましょう
- ・収穫残渣は、放置せずに適切に処分しましょう
- ・収穫しないカキやイチジクなどの果樹は、できるだけ伐採しましょう
- ・2 番穂も好んで食べるので、稲刈りが終わったら秋うちをしましょう
- ・墓地へのお供え物は、即回収しましょう



←放置された野菜

人間から見ればただのゴミですが、イノシシにとってはごちそうです。

### (2) 隠れ場所をなくしましょう

家や農地の周りの藪や荒廃農地は、人間の活動が少ないため、イノシシにとって格好の隠れ場所や侵入経路となります。草刈りなどの管理を行い、見通しの良い環境に改善しましょう。



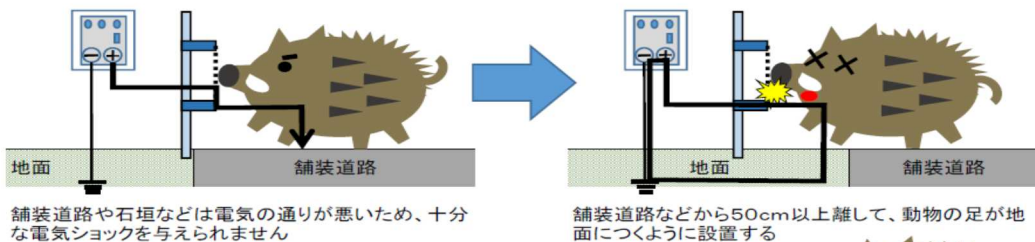
### 3 被害防除

イノシシの被害を防除するには、電気柵の設置が効果的です。電気柵とは、柵にイノシシの鼻や口が触れることにより電気が流れ、その電気ショックにより侵入を防ぐ柵のことです。侵入防止効果を高めるために、適切な設置や維持管理を心がけましょう。

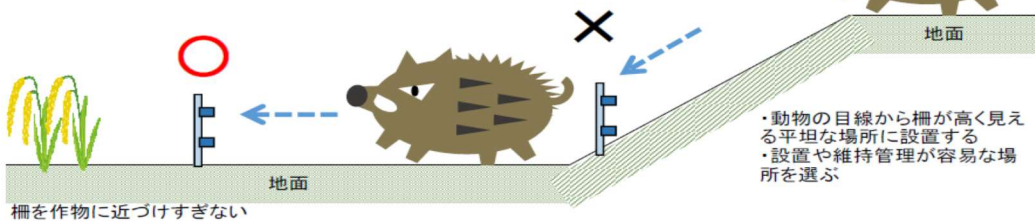
#### (1) 設置のポイント

##### ア 適切な場所への設置

○電気柵は舗装際には設置しない！！

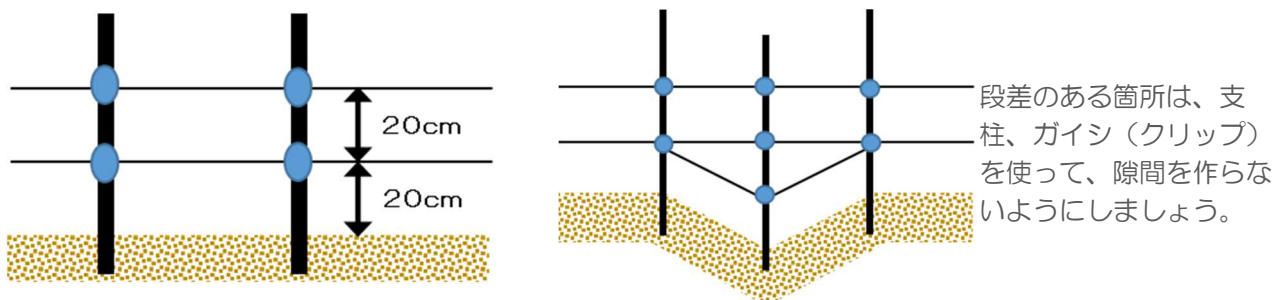


○電気柵は斜面を避けて平坦な場所に設置する！！



##### イ 電線は2段張りに

- ・下の線は、地面から20cmとし、上の線は、地面から40cmとする。
- ・電気柵の抜け道を探して侵入します。イノシシ目線で設置することが重要です。



##### ウ ガイシ（クリップ）は外向きに

支柱と電線をつなぐガイシは、外向きにして侵入を防ぎましょう。

##### エ 24時間通電

イノシシは夜間だけでなく昼間も行動するので、常に電源を入れましょう。

## (2) 維持管理のポイント

### ア 電圧の確認

- ・電圧が下がると、電気ショックの効果がなく、侵入されてしまいます
- ・毎日電圧を点検し、**4,000 V 以上**あるか確認しましょう

### イ 雑草や枯れ枝などが電線に触れていないか

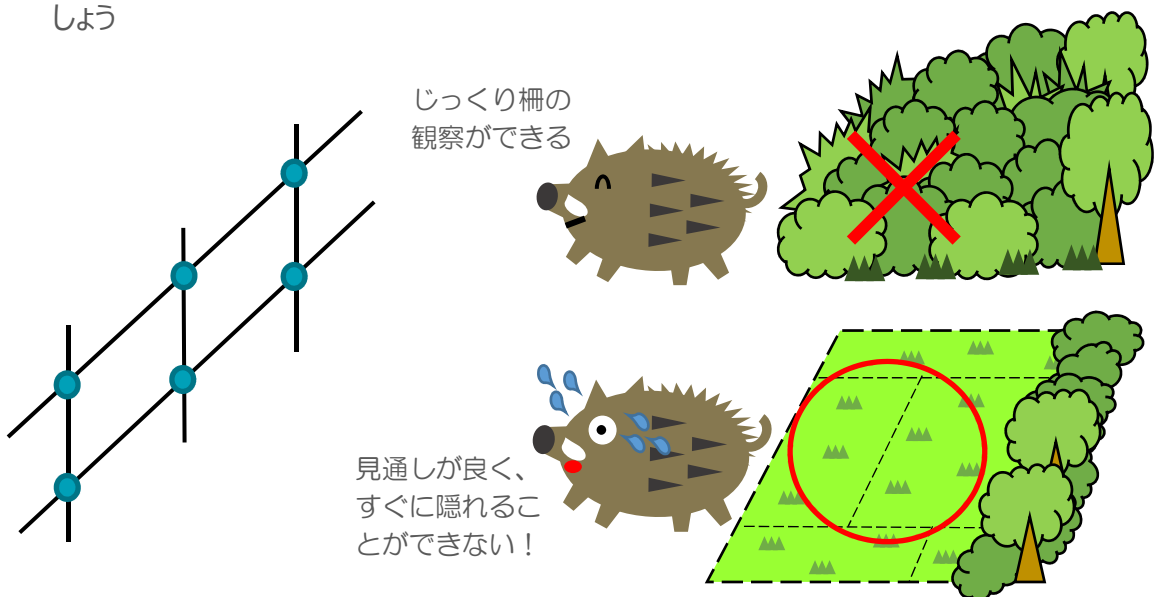
- ・雑草や枯れ枝が電線に触れると漏電の原因となり、電圧が低下します
- ・集落で協力し、**定期的な点検や草刈**を実施しましょう

### ウ 電線が切れていないか、たるんでいないか

- ・電線が切れていれば、結んでつなぎ、たるんでいれば、ぴんと張りましょう

### エ 電気柵周りの環境整備

- ・イノシシは、荒廃農地に住み着いており、荒廃農地に隣接する電気柵は、イノシシに学習する機会を与えてしまい、電気柵を突破される可能性があります
- ・電気柵の効果を維持するために、集落で協力し、電気柵周りの草刈を実施しましょう



電気柵は、設置して終わりではありません…

設置してからの維持管理が重要です！

誰か一人に押し付けるのではなく、

集落で協力し合い、みんなで取り組みましょう！

## 4 個体数管理（捕獲）

イノシシは、有害鳥獣捕獲と狩猟により捕獲しています。

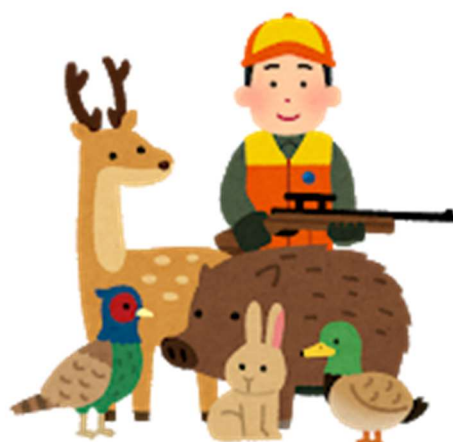
### (1) 有害鳥獣捕獲

- ・有害鳥獣捕獲は、野生鳥獣が農作物に被害を与える場合、もしくはその発生の恐れがある場合に、県や市の許可を受けて実施する捕獲です
- ・柏崎市では、狩猟免許を有する猟友会柏崎支部の協力を得て、捕獲を実施しています
- ・農作物被害があり、猟友会による罠の設置を要望する場合は、市に御相談ください

### (2) 狩猟

- ・狩猟は、狩猟区において狩猟対象鳥獣を捕獲するものです。
- ・新潟県では、毎年11月15日から翌年2月15日（県内一部地域を除きイノシシ及びニホンジカは3月15日）までが狩猟期間となっています。
- ・狩猟を行うには、狩猟免許の取得と狩猟者登録が必要です。

有害鳥獣捕獲、狩猟ともに、**狩猟免許**が必要となります。市では、狩猟免許のうち第一種銃猟免許及びわな猟免許を新規に取得する方に対し補助金を交付しています。別途要件はありますが、興味のある方は市に御相談ください。

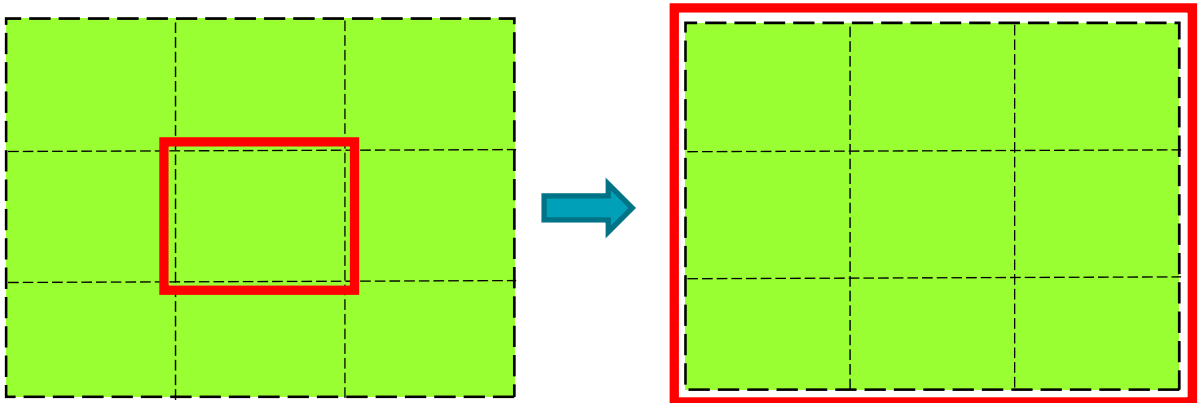


## 5 集落ぐるみの取組

イノシシの被害を減少させるには、集落ぐるみで取り組むことが重要です。個人だけで取り組むのではなく集落全体で取り組みましょう。

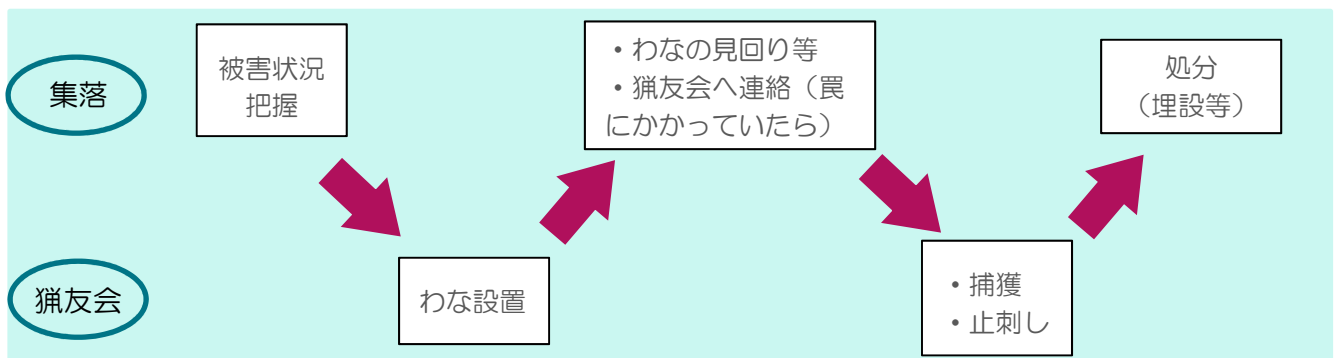
### (1) 集落ぐるみの電気柵設置

イノシシの場合、ほ場ごとに柵を設置するよりも、集落のまとまった範囲に設置する方が効果を得ることができます。しかし、まとまった範囲を設置するのは、労力や人員もかかります。まずは、設置範囲や維持管理等の取り決めを集落内で合意した上で導入しましょう。



### (2) 猟友会と連携した捕獲体制づくり

猟友会は、「くくりわな」や「はこわな」等による捕獲を行っています。捕獲は、わなの設置、定期的なわなの見回り、止刺し、処分（埋設等）などの大変な労力がかかります。被害を受けている集落が積極的に捕獲に協力することが必要となります。下図のように集落でできること、猟友会にしかできないことを区別し、集落と猟友会が連携することで、効率的な捕獲が実行できます。





### (3) 集落環境診断の実施

集落環境診断とは、野生鳥獣による被害がある集落の周辺環境を調査し、集落の課題を見出し、それに見合った対策を検討し、実施するものです。集落環境診断の実施に当たっては、集落住民、鳥獣害専門家、行政がそれぞれ役割を明確にして実行することが重要です。あくまでも、鳥獣害専門家、行政はサポートする立場です。鳥獣害対策の勉強会、集落環境の調査、ワークショップ等を通じて「誰か何とかして」という依存体質から、集落住民による自立した対策を実行するためのきっかけづくりになります。

## 6 最後に

イノシシの被害対策は、正しい方法で取り組まなければなりません。正しい対策を講じ、被害をなくすためにこのマニュアルを参考にいただければ幸いです。集落においてもマニュアルを活用し、集落住民一人一人が取り組めるよう御協力をお願いします。



○ 本市ホームページでは、次の情報を随時更新しています。

- イノシシの目撃情報
- 有害鳥獣の捕獲情報

**【問合せ先】**

柏崎市有害鳥獣被害対策協議会  
(事務局：柏崎市市民生活部環境課内)  
電話 0257-21-2279  
FAX 0257-23-5116